
MEMORIZE

月守 空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

MEMORIZE

【Nコード】

N5974B

【作者名】

月守 空

【あらすじ】

八年前に一目ぼれした少年に中学生になってから、再会。でも、進展はなくて・・・

皆さんは初恋の人を覚えていますか？

もしかしたら、忘れてしまっている人も少なくないと思います。

でも、私は忘れていません・・・いや、忘れる事など出来ません。
何故なら・・・

「その彼は今、隣にいるから」

私「三崎 唯里」（ミサキ ユイリ）は校舎の壁に寄りかかっていた。
た。

その視線の先には、一人の少年が映っていた。

彼の名前は「高橋 玲」（タカハシ レイ）

隣のクラスの人だ。

「・・・用は何？」

「えっと・・・その・・・」

玲は、なかなか切りださなかった。

本日は、部活のない日の為、辺りは静まり返っている。

私と玲の間にひろがっている、沈黙が息苦しかった。

「・・・早くしてよ。私この後、急がしいのに」

「だから・・・僕は・・・」

風が吹き、玲の長めの黒髪がそよぐ。

私は、風の強さに思わず目をつぶった。

「唯里さんの事が・・・」

そこまで言って、玲は一端口を閉じた。

ようやく、風がおさまり私は目を開けた。

目を開けた私が見たものは・・・

真直ぐ真剣な瞳で私をみている、玲の姿だった。

私は、驚いていた。

何故なら・・・

「こんな玲の姿を今までに一度も見つた事がなかった」

からだ。

私の知っている玲は

「友達と騒いでいる姿」

「集会の時に寝ている姿」

「体育で飛び跳ねている姿」

くらいだった。

「・・・唯里さん？話聞いてた？」

玲の声で我に返った。

目の前にいる玲は、いつもの無邪気な少年に戻っていた。

どうやら、私が回想している間に何か言っていたらしい。

「あゝごめん。聞いてなかった。もう一回お願い。」

すると、玲は「何度も言わせんなよ」と言わんばかりにため息をつき

「だから、僕は唯里さんの事が好きです」

「へっ・・・て本当？」

告白を聞いてないなんて・・・

私は何をしてたんだ。

自分で自分につっこみをいれた。

「返事は？」

本当は少し時間が欲しかった。

でも、告白を聞いてなかったうえに二度も言わせてしまった。

それで、「待って」とは言えない。

答えは「YES・NO」の二つ

私の中で、答えは決まっていた。

「私も。好きです」

どうして、「YES」と言ったのか。
それは・・・

「彼が初恋の人だから」

私の初恋は今から八年前の、六歳の時
道ですれ違った、同じ年くらいの男の子に一目ぼれをした。
その時は、彼に関するとは何も知らなかった。

「あゝあ。また会いたいな・・・」

そう思って過ごした七年間。

本当に辛かった。

でも、私は会えることを信じていた。

そんな、私に神様が同情してくれたのか、何なのか奇跡は起こった。
何と、初恋の彼が同じ中学にきていたのだ。

しかも、隣のクラスに・・・

嬉しかった。

天に昇るくらい嬉しかった。

そして、私はこっそり彼についての情報を集めた。

「高橋 玲」

という名前だという事を知った。

特別、仲がいい訳ではなかった。
必要最低限、会話はしないし。

会おうと思えば簡単に会いにいった距離だったが私は行かなかった。
行かない理由はない。

ただ、何となく行きにくいかったただけなのだ。

「唯里？小説出来たか？」

ひよっこりと玲が現れた。

「うわっ・・・玲？急にくるな。心臓に悪いだが・・・」

「あはは。ごめんごめん・・・」

告白された日から四年という月日が流れた。

私は「小説家」になる為、現在執筆中。

玲はというと「漫画家」になる為、こちらもまた執筆(?)中

二人とも、夢に向かって歩いてる途中だ。

もしも、玲がいなかったら・・・

何て、考えられない。

忘れられない初恋。

大切なあの人は、今日も明日も明後日も

きっと、私の隣で笑ってる。

私はそう信じてる。

T
H
E

E
N
D

(後書き)

滅多に書く事のない「恋愛」です。

ノンフィクションっぽいですが、これは完全なフィクションです。

でも、現実にあるそうですね？ こんな恋

感想・批評・・・何でもいいのでよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5974b/>

MEMORIZE

2011年1月16日05時10分発行